

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援SOUFIRST安慶名		公表日		
				R7年 5月 14日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		どの訓練室も、必要な広さを確保している。	体を動かすプログラムの際は、公園の広々とした野原を使用するなど、安全に配慮し事故防止に努めている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		利用児童の人数や特性に応じて、定期的に配置を見直し、適切な人員配置を行なっている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。 また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4		静養室を設け、落ち着ける場所を確保している。また、安全対策として、死角になる場所や危険を伴う箇所には柵を設置し、絵カードを掲示し視覚的に分かりやすくしている。さらに、ぶつかる危険な箇所にはクッションを設置し、安全に配慮した環境作りを行なっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		主な活動スペースには、できるだけ物を置かず、広々と活動できるようにしている。また、消毒や掃除を毎日徹底し、快適に過ごせる環境づくりを行なっている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		静養室を設け、クールダウンが必要な児童や集団が苦手な児童など、特性に応じて使い分けできるようにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		毎朝朝礼を行い、職員全員で目標設定や振り返りを行なっている。振り返りでは、改善点だけでなく良い点も共有できるようにしている。また、その日のうちに改善点について話し合い、今後の方向性を定めている。	今後も職員が発言しやすい環境を整える。朝礼だけでなく、終礼も取り入れ、目標設定や課題・進捗の振り返りを行うことで、翌日の支援に反映させやすくし、各自の役割をしっかりと果たしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		評価表の結果を職員に共有し、保護者の意向や意見を確認した。また、改善点について話し合った。	開所したばかりで不明点が多いとの意見があり、その点について保護者に説明し、今後の意向や不安を解消できるよう努めていく。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		朝礼時に支援や業務に関する意見交換を行なっている。また、業務改善についてはその場で解決策を話し合い、できる限り即時に対応できるよう努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4		社内監査を定期的の実施し、他事業所から評価を受けている。	評価結果をもとに職員で共有し、業務改善に努めていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		研修実行委員会による定期的な研修に参加しており、また、月一回末就学児をメインとした社内研修に参加している。年度毎に発表者を選定し、研修を開催している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		主に児童発達支援管理責任者が作成し、ホームページやSNSで公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		子どもが好きなこと、楽しいと思うこと、苦手なことを観察し、可能な限り本人への聞き取りを行なっている。また、職員で支援会議を実施し、アセスメントの情報収集を行い、計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		個別支援計画案をもとに、支援会議を実施し、ニーズや支援内容の確認を行い、検討や意見交換を行なっている。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		職員で計画書の内容を共有し、支援内容の確認を行なっている。また、計画書はいつでも確認ができるようにしている。	

適切な支援の提供	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		毎日児童のプログラムの内容を設定し、評価シートを用いてスモールステップで記録している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		支援計画書で項目毎に分類し、具体的な支援内容を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		前月に職員間でプログラム内容を立案し、日ごとに活動プログラムの担当者を設定している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		同じ月内でプログラムが重ならないように設定し、職員間でその都度話し合い、ねらいを定め、児童が楽しめるプログラムを考案している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		個別支援計画に基づき専門支援計画書を作成し、個別課題と集団課題を統合して計画を作成し、支援を行なっている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		朝礼で支援内容の確認と役割分担を行い、連携して支援を行なっている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		4	朝礼で前日の支援の振り返りを行い、情報を共有している。	現在終業前に終礼の時間を確保するのが難しいため、朝礼で前日の支援の振り返りを行なっているが、今後は終礼を取り入れ、その日のうちに支援の振り返りや情報共有ができるよう進めていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		児童の特性に合わせて評価シートを作成し、記録している。課題設定の見直しや改善をその都度行なっている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		開所したばかりのため、現時点では未実施。	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、必要に応じて適切な見直しを実施していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		主に児童発達支援管理責任者が参画している。	モニタリングなどで児発管の代理として参加する場合は、5年以上の経験を持つ保育士や、児童の状況をよく理解している職員が参画することを予定している。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		保育園や子ども園など、必要に応じて先生にも会議に参加してもらい、情報共有を行いながら、連携した支援ができるよう努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		年長になると、就学に向けて年長カリキュラムを実施している。また、保育所や子ども園を交えた会議を行い、今後に向けた意向の確認や情報共有を行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		4	開所したばかりのため、現時点では未実施。	就学時の移行に際しては、小学校や特別支援学校(小学部)との間で支援内容の情報共有を行い、相互理解を図っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
		(31は、事業所のみ回答)			開所したばかりのため、現時点では未実施。	市の連絡会に加入し、地域の児童発達支援センターなどと連携を図り、助言やフーパードビジョンを受けし機会を設

	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		4		「アサーバー・ヒンヨンを受ける機会を設けていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4	開所したばかりのため、現時点では未実施。	児童館や公園の利用、地域イベントへの参加などを積極的に行っていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		送迎時の申し送りや連絡帳にて情報共有を行っている。家庭支援では、家庭での様子を聞き取り、相互に共通理解を持ちながら、課題へのアプローチができるようにしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		4	開所したばかりのため、現時点では未実施。	役所などの研修開催を通じて情報収集を行い、随時情報提供を行っていく。また、保護者向けの研修開催も検討していく。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時には、丁寧な説明を心がけている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		相談支援計画ををもとに、子どもの最善の利益を考慮し、保護者へ優先事項を確認している。また、アセスメント時に保護者や子どもの意見・意向を確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		計画が完成したのちに保護者へ説明を行い、署名にて同意を得ている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		送迎時のほか、電話やメールなどを通じて随時対応し、助言や家族支援を行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		保護者主催のイベントに親子で参加できる機会を設け、保護者同士の交流の場としても活用している。	今後は事業所で保護者会開催を予定。保護者同士やきょうだい同士の交流の機会をより多く設けていく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		管理者に報告し、迅速かつ適切に対応できるよう体制を整えている。また、保護者からの申し送りについても内容を共有し、必要に応じて児発管が対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		月に1回事業所便りを配布。また、定期的にHPやSNSで活動概要、行事予定を発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		契約時に個人情報について説明を行い、署名にて同意を得ている。また、職員全体で適切な取り扱いに留意している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		意思疎通が難しい子どもへは、絵カードやジェスチャーを用いて情報伝達を行なっている。また、保護者へは確認事項などこまめに連絡、メールで再度伝達するなどを行なっている。	
非	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	開所したばかりのため、現時点では未実施。	本社主催のイベントへ保護者様を招待するとともに、事業所で季節ごとのイベントを企画し、開催していく。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		職員や保護者へマニュアルを周知し、定期的な訓練を実施する。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		BCPを策定、開所したばかりのため、避難や必要な訓練においては順次実施していく	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		事前に持病や服薬について確認を行い、契約時に必要な情報として記録をもらっている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		事前にアレルギーの有無の確認を行なっている。	アレルギーの該当児童がいる場合には、対応方法を職員に共有し、目の届く場所に指示書を保管するなどして、迅速に対応できるようにしていく。

常時等の対応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		日々の支援や外出時には、安全対策を講じ、事前にスケジュールや流れを組んだ上で職員間で共有し、安全管理を行なっている。	安全計画をその都度作成し、安全管理を徹底して行なっていく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		児童の特性や特に気をつけてほしい事項について、事前にアセスメントを行い、職員間で共有するとともに、保護者へ事業所での対策を共有している。	安全計画を作成し、保護者へ周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		ヒヤリハットをその都度職員間で共有し、対策や改善について話し合う場を設け事故防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		虐待防止・身体拘束適正化委員による研修を受講。	適切な対応を学び、実践していく。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		緊急をやむを得ない身体拘束について契約時に保護者へ説明を行い、署名にて同意を得ている。	対象児童がいた場合には、計画に記載する。